

[外国語]

自分の考えや気持ちを表現する生徒の育成

- 産出的技能の育成のための効率的な手立て -

中山 孝毅*

1 研究の背景

(1) 現代の英語教育の課題

グローバル化が急速に進む現代において、英語によるコミュニケーション力の向上がこれまで以上に求められている。新学習指導要領の外国語科の目標は、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次の通り育成することを目指す」とある。「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると考えられる。したがって、この「見方・考え方」を働かせ相手に対する意識をもちながら、場面・状況を捉えて、実際に外国語を使って自分の考えや気持ちなどを表現することを中心とした授業が求められている。

しかし、授業では依然として、文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が適切に行われていないことや「やり取り」・「即興性」を意識した言語活動が十分ではないことなどの課題がある(文部科学省, 2018)。また、安宅・松沢(2016)は英語学習者としての中学生は、まとまりのある文章を書く力を身に着けることに困難を感じており、教師もまたその指導の難しさを実感していると指摘している。

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果を見ると、やはり産出的(Productive)技能、つまり「話すこと[やり取り]」と「書くこと」について全体的に課題が多い。やり取りを聞き、その内容を踏まえて会話が続いていくように即興で質問をすることができるかどうかをみる問題の正答率が10.5%、また、自分の考えをまとまりのある英文で書く問題の正答率が1.9%とかなり低いのが実情である。この結果から、いつ自分が発話するのが分からない状況で、話されているやり取りを聞きながら、即興で応じることに慣れていないことが考えられる。また、与えられたテーマのもとで、基本的な語や文法事項等の知識・技能を活用し、自分の考えを表現することに課題がある。

(2) 本校の生徒の実態

2021年5月に、生徒の英語に対する意識を調査するため、2年生を対象にアンケートを行った。以下がそのアンケート結果の抜粋である。

表1 ① あなたは英語が好きですか

はい	いいえ
29%	71%

表2 ② あなたは英語のどんなところが好きですか

・たくさんの人とコミュニケーションが取れるところ	・自分の話した英語が相手に伝わった時の達成感
--------------------------	------------------------

*上越市立直江津東中学校

表3 ③ あなたは英語のどんなところが嫌いですか

・単語が覚えられない ・文法が複雑 ・発音が分からない ・英語の語順が分からない ・話すことが苦手 ・Small Talk が続かない ・自分の言いたいことをどう英語で表現すればよいのか分からない

以上の結果から、英語を使って相手とコミュニケーションをとれたことへの達成感を感じる生徒が多いようである。一方で、Small Talkが続かない、英語で自分の言いたいことをうまく表現できないといった理由から英語が嫌いと感じる生徒もいる。やはり、言語使用の場面・状況に応じて、即興的にやり取りをすることや、自分の考えや気持ちをまとまりのある英文で書くことに課題がある。

以上の現代の英語教育の課題、本校の生徒の実態を鑑み、本研究では「話すこと [やり取り]」と「書くこと」に焦点を当て、生徒の産出的 (Productive) 技能の育成のための効率的な手立てを模索していく。

2 研究仮説

(1) 「話すこと [やり取り]」における研究仮説

「話すこと [やり取り]」の能力を少しずつ身に付けることができるようにするために、2019年に「移行期における指導資料について (中学校外国語科)」(文部科学省, 2019) が示され、その中で、Small Talk の実施案が提示された。Small Talkとは「2時間に1回程度、帯活動で、あるテーマのもと、指導者のまとまった話を聞いたり、ペアで自分の考えや気持ちを伝え合ったりすること」と定義されている(文部科学省, 2017)。中学校の Small Talk の手順は 1. Interactive Teacher Talk, 2. S-S Interaction 1, 3. Sharing, 4. S-S Interaction 2であると示されている (文部科学省, 2019)。

1. Interactive Teacher Talkとは、あるトピックについての教師の話を書くことと聞いた活動である。生徒は教師の話す英語を書くことで、自らが自己表現をする際に役立つ表現をインプットする。

2. S-S Interaction 1では、テーマが与えられた後の1回目のやり取りで、生徒はペアで即興的に対話をする。このとき自分の言いたいことを英語でどう表現するかが分からず、困る生徒もいるだろう。しかし、自分が知らない単語や理解できていない文法を意識化させることも目的の1つである。これは英語でどう表現するのだろうかという思いを抱いた生徒は、課題意識を持つ。こういった課題の自覚は、解決しようとする主体性につながると考える。

3. Sharingでは、1回目のやり取りの後、言いたいことが英語で表現できずに困ったことはなかったかを聞き、生徒の表現の幅を広げる。また、複数の生徒が共通して間違っている箇所があれば、全体で確認する。この際、文字を使った指導を通して正確性にも焦点を当てながら指導していく。また、同時につなぎ言葉や相づちなどコミュニケーションを円滑にするツールの確認も行う。

4. S-S Interaction 2は、2回目のやり取りを行う。ここでは、同じトピックについて違うパートナーと対話する。Sharingを経て、2回目の対話は1回目よりもスムーズに対話できることが期待できる。2回目のやり取りでは生徒に「1回目より上手に話せた」という達成感をもたせたい。

筆者はこれまで、Small Talkは英語が苦手な生徒にとって苦痛の時間になりうるとして敬遠してきた。しかし、粘り強く支援をしながら、以上のプロセスを踏んだSmall Talkを継続的に行うことで、生徒の英語に対する意識の変容を促すことができ、結果的に彼らの即興で話す力を高めるのではないかと考えた。

仮説1：一連のプロセスを踏んだSmall Talkを継続的に行うことで、生徒の即興で話す力は高まるだろう。

(2) 「書くこと」における研究仮説

安宅・松沢 (2016) によると、日本人中学生がまとまりのある英文を書く力の育成する上で、以下の教授サイクルが有効とされる。

1. 状況設定 (Developing the context) でテーマ、そしてその場面・状況を明らかにする。2. 手本理解 (Modeling and deconstructing the text) で英文の構成や特徴を分析する。3. 評価基準の共同組立 (Joint construction of the assessment criteria) で教師と生徒が共同で評価基準を作成する。4. 共同組立 (Joint construction of the text) で教師に導かれて文章を書く練習をする。5. 自力組立 (Independent construction of the text) で教師に見守られて自力で文章を書く。最後に、6. 教師と学習者の検討会 (Conferencing) を行う、といったものである。

1～4のサイクルを踏んで生徒は、与えられたテーマについてどのような構成で英文を書けばよいのか、どの既習文法事項を使えばよいのか、どのようなことに気を付けて英文を書くべきなのかを理解する。しかし、5. 自力組立 (Independent construction of the text) の段階で、いざ自分の意見や考えを書くときに、英文を書く上での情報が足りない、自分の言いたいことを英語で表現することができないといった生徒が多くいることに気づく。そこで、5. 自力組立 (Independent construction of the text) の段階で、情報機器の使用を許可する。そうすることで、生徒はより多くの情報を入手して英文の内容を膨らませたり、分からない単語を調べたりして、自分が本当に伝えたいことを表現することができる考えた。

仮説2：情報機器の使用は、自分の考えや気持ちをまとまりのある英文で書く上で有効な手段であるだろう。

以上の2つの仮説を学期末の生徒アンケートによって検証する。

3 指導の実際

(1) 「話すこと [やり取り]」

今年度、前述の文部科学省によって示された手順 (1. Interactive Teacher Talk, 2. S-S Interaction 1, 3. Sharing, 4. S-S Interaction 2) に従って、平均週に3回程度、継続的にSmall Talkを行ってきた。Small Talkのような言語活動とは、生徒が自分の考えや気持ちをどのように英語で相手に伝えればよいのかを思考、判断し、それを表現する活動である。したがって、1. Interactive Teacher Talkの段階で、ヒントを与えすぎないことや、使用する英語表現を指定しないことを心がけた。不十分でも、まずは生徒自身で英語を表現させ、それを補充し、ブラッシュアップしたものを再度表現させるというプロセスを粘り強く続けてきた。その結果、3. Sharingを通して文法的に誤っていた箇所を修正し、4. S-S Interaction 2では、より高度なレベルで対話をする姿が見られた。また、回数を重ねるごとに、生徒の使う語彙や表現が徐々に増えていき、会話の幅が広がってく様子も見受けられた。

以下は、2学期初回の授業のSmall Talkの一連の流れを示したものである。

1. Interactive Teacher Talk

T: How was your summer vacation? Was it good? I had a great time during summer vacation. I went to Niigata city with my friends and enjoyed shopping. I bought a cool T-shirt. How about you? What did you do during summer vacation?

2. S-S Interaction 1

S1: What did you do during summer vacation?

S2: ... I see my おばあちゃん. I enjoy 花火. How about you?

S1: I played baseball with my friends. It was fun.

S2: That's nice.

3. Sharing

T: S2さん, What did you do during summer vacation?

S2: I see my おばあちゃん.

T: Oh, you saw your grandmother. Grandmother means “おばあちゃん” in Japanese. What did you do with her?

S2: I enjoyed 花火.

T: That's nice. You enjoyed doing fireworks. Firework means “花火” in Japanese.

T: 他に何か困ったことや言えなかったことはありますか?

T: 相手の質問にすぐに答えられないとき、つなぎ言葉を使えるといいね。

T: Next, with your 縦 partner.

4. S-S Interaction 2

S3: What did you do during summer vacation?

S2: Well, I saw my grandmother. I enjoyed doing fireworks.

S3: great!



授業後、今回のSmall Talkを通して良い変化があったS2にインタビューをした。

T: 一回目よりも二回目のSmall Talkのほうがはるかにレベルアップしたね。どうして？

S2: 一回目のSmall Talkをした後に、分からなかった表現を先生が教えてくれて確認できたから、二回目は自信をもってできました。あと、一回目ではつなぎ言葉も使うことを忘れていたけど、二回目では使うことができました。

この生徒の発言からも、一連のプロセスを踏んだSmall Talkを継続的に行うことは、生徒の英語力向上に寄与することが分かる。

(2) 「書くこと」

1学期末に生徒の書く力を評価するため、パフォーマンステストを行った。「修学旅行で新潟県以外の場所に行くとしたら、あなたはどこに行ってみたいと思いますか。その場所をPRする紹介文を、4文以上のまとまりのある英文で書きなさい。」というものである（このパフォーマンステストに向けて、授業で「新しく来たALTに新潟県をPRする紹介文を書こう」というテーマのもと練習を重ねてきた）。この紹介文を書かせる際には、前述のとおり情報機器の使用を許可した（但し、分からない表現については、語・句単位で調べることを許可した）。その結果、多くの情報を入力し、その土地ならではの具体性のある内容をPRできている生徒が一定数いた。このことから、情報機器を使うことは、PR文をより説得力のあるものにするために、どのような情報が必要なのかを思考・判断し、表現する上で、有効な手段と言えるだろう。

以下は、ある生徒が書いたPR文である。

I think that you should visit Osaka. There is a big castle there. Its name is Osaka Castle. It is very famous. You can enjoy taking pictures. There is a big tower too. Its name is Tsutenkaku. You can eat takoyaki with various flavors there. They are very nice.

（私は大阪を訪れるべきだと思います。そこには大きな城があります。その名前は大阪城です。それはとても有名です。写真を撮ることを楽しむことができます。また、大阪には大きな塔があります。その名前は通天閣です。そこで、さまざまな風味のたこ焼きを食べることができます。それらはとてもおいしいです。）

4 生徒アンケート結果と結論

2021年7月に、生徒の英語に対する意識の変容を調査するため、中学校2年生を対象に再度英語に関するアンケートを行った。以下がアンケートの結果の抜粋である。

表4 ① あなたは英語が好きですか

はい	いいえ
40%	60%

表5 ② あなたは英語のどんなところが好きですか

・友達と英語で話すことが楽しい ・自分の話した英語が相手に伝わった時うれしい ・授業の雰囲気がいい ・iPadを使った授業が楽しい

表6 ③ あなたは英語のどんなところが嫌いですか

・単語が覚えられない ・2年生になって文法が分からなくなってきた ・長文が読めない ・友達と話すことが苦手

以上の3つは、5月に行ったアンケートと同じ問いである。「あなたは英語が好きですか」という問いに対する「はい」の回答が5月では29%であったのに対して、今回は40%まで上がった。また、②の質問ではSmall Talkを継続して行ってきた成果とも言える回答が多かった。

以下は、アンケートの続きの結果である。ここではSmall Talkに焦点を当てた。

表7 ④ あなたはSmall Talkが好きですか

はい	いいえ
60%	40%

表8 ⑤④で「はい」と答えた理由

・友達とたくさんコミュニケーションをとることができるから・普段しゃべらない友達とコミュニケーションをとることができるから・クラスの雰囲気良くなるから・いろいろな人の意見や考えを聞くことができるから・1分間話を続けることができるから・達成感があるから・徐々に気まずい間が空くことなく会話することができるようになってきて楽しいから・自分の英語力を試すことができるから

表9 ⑥④で「いいえ」と答えた理由

・上手に英語を話すことができないから・人と話すことが好きではないから・話が續かないから・話すことよりも書くことのほうが好きだから・返し方が分からないから・緊張するから

表10 ⑦ Small Talkはあなたの英語力を向上させてくれると思いますか

はい	いいえ
91%	9%

表11 ⑧⑦で「はい」と答えた理由

・話すことで自然に英語が身につくと思うから・こういう時はどういう風に表現すればよいのかなど考えることができるから・実際にSmall Talkを繰り返すことで、間が空くことなく話せるようになってきた・自分で考えて話さなければならないから・次はもっとうまく話したいと思えるから・相手が話した英語の意味も理解しなくてはいけなから・いろいろな表現を覚えることができるから・コミュニケーション力が身につくから・実際に使うことで復習にもなるから・以前の自分よりも英語が話せるようになったと実感しているから・覚えた表現を実際に使うことで定着させることができると思うから

表12 ⑨⑦で「いいえ」と答えた理由

・結局そんなに話さないから・毎回同じところで会話が途切れてしまうから

④の問いに関しては、肯定的な回答が多かった。Small Talkを重ねて行っていくことで、最初のうちはなかなか英語が話せなかった生徒も、徐々に即興的に話すことができるようになったり、会話が續くようになり、達成感を感じているようだ。また、Interactive Teacher Talk, S-S Interaction 1, Sharing, S-S Interaction 2を繰り返すことで、生徒は徐々に自信をつけていき、楽しみながら対話している様子が見取れた。一方で、④の問いに関して、否定的な回答をした生徒は、依然として「話が續かない」「返し方が分からない」といった理由を挙げている。これからもつなぎ言葉や相づち、また生徒の自己表現に役立つ表現のインプットを継続して行う必要がある。また、「緊張するから」といった理由を挙げている生徒もいることから、間違いを恐れなくて英語を話すことのできる雰囲気の醸成にも努めていく。⑦の問いに対しては、肯定的な回答が大多数を占めた。Small Talkを重ねてきたことで、英語で即興的に話す力をはじめとする英語力が向上したと実感する生徒が多いようだ。また、特定のテーマのもとで、自分の言いたいことを英語でどう表現すればよいかを考えることは、生徒の思考力・判断力・表現力の育成にもつながっている。さらに、「次はもっとうまく話したいと思えるから」と答えている生徒もいることから、生徒が自らの学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く学習に取り組む姿も見取ることができる。以上の結果から以下のように結論付ける。

結論1：一連のプロセスを踏んだSmall Talkを継続的に行うことで、生徒の即興で話す力は高まる。

次に情報機器の使用に関するアンケート結果の抜粋である。

表13 ⑩ あなたは情報機器を使った授業が好きですか

はい	いいえ
100%	0%

表14 ⑪⑩で「はい」と答えた理由

・新鮮だから・楽だから・楽しいから・自分の分からない単語や表現を調べることができるから・たくさんの情報を入手できるから・より興味がわいてくるから・やる気がでるから・情報機器を使うことで、本当に自分が伝えたいことを表現することができる

表15 ⑫ 情報機器を使った授業はあなたの英語力を向上させてくれると思いますか

はい	いいえ
86%	14%

表16 ⑬⑭で「はい」と答えた理由

・楽しく学習できるから・知らない文法や単語をたくさん知ることができるから・分からない単語の意味だけでなく、発音も知ることができるから・本当に言いたいことを表現できるのでやる気になる・教科書に載っていないことも知ることができるから・紙辞書を引くよりも効率がよい・情報機器を使うことで時間短縮ができ、その分たくさんの英語を覚えることができる
・自分に合った学習法で学習できるから

表17 ⑭⑫で「いいえ」と答えた理由

・自分で考えようとしなくて情報機器にばかり頼りすぎてしまうのは良くないと思うから・確かに楽だけど、手で調べたり書いたりしたほうがより覚えられそうだから・頭を使わなくても翻訳機能を使えば英文が完成してしまうから・調べた単語を実際に使ってコミュニケーションをとることができないから

⑩の問いで肯定的回答が100%だったように、これまでにない授業スタイルである情報機器を使った授業は、生徒の興味関心を惹きつけるものであることは間違いない。また、⑫の問いに対する回答も肯定的なものが多かった。情報機器を使い、分からない単語を学習したり、意欲的に自分が本当に言いたいことを表現しようとしたりすることで、英語力の向上につながると考える生徒が多いようだ。しかし、情報機器を使うことは便利な一方で、知識・技能の定着や思考力の育成に必ずしもつながらないと考える生徒も一定数いることから、使用頻度には留意したい。以上の結果から、以下のように結論付ける。

結論2：情報機器の使用は、自分の考えや気持ちをまとまりのある英文で書く上で有効な手段である。

5 今後の課題

本研究から、Small Talkを継続的に行うことや、適宜情報機器を使用することは、自分の気持ちや考えを表現する生徒の育成につながると考える。自分の本当に言いたいことを表現できることは生徒の英語を学ぼうとする意欲につながり、その結果、英語力の向上につながっているのだろう。一方で、7月に行ったアンケート結果を見ると、このような実践を通して、英語に苦手意識を感じている生徒は一定数いることが分かる。今後は、そのような生徒も英語を学ぶ意欲を高めていけるような指導法や活動を模索していく必要がある。

また、本研究は産出的(Productive)技能である、「話すこと[やり取り]」と「書くこと」に主に焦点を当てたが、今後は受容的(Receptive)技能である、「聞くこと」と「読むこと」にも視野を広げていきたい。ある英文を聞いて、その英文に関する自分の考えや気持ちを即興的に表現する活動や、ある英文を読んで、それに関する自分の意見や考えを書くといった統合的な活動を行うことで、生徒の英語力をさらに育成していきたい。

6 参考文献

- 安宅いずみ・松沢伸二(2016)。「まとまりのある文章を書く力の指導と評価の改善－ジャンルと学習・練習・評価タスクを用いて－」『KATE Journal』vol. 30, 168-175.
- 国立教育政策研究所(2019)。「平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査 報告書 中学校/英語」国立教育政策研究所, 2019年7月
- 文部科学省(2019)。「移行期における指導資料について(中学校外国語科)」
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/04/05/1414476_1.pdf
- 文部科学省(2013)。「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2014/01/31/1343704_01.pdf
- 文部科学省(2013)。「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編」東京：開隆堂